府立八尾北高等学校
校長　田中　隆博

平成 29 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

地域に根ざした総合学科高校として、多様な人々がともに生きる社会の形成者を育成する学校をめざす。

１　総合学科の特性を活かし、多様な生徒の多様な学びと多様な進路実現を保障する。
２　人権教育を軸にして、主体的に社会に参画し、他者と協働できる資質・能力を育む。
３　地域とともに学び、地域の教育力の向上に貢献する。

２　中期的目標

１．総合学科の特性を活かし、「確かな学力」を育む

（１）総合学科の特色を生かしたカリキュラムマネジメントの推進
　ア　生徒の学力を把握・分析し、本校の取組みを評価・改善していくシステムを確立する。
　　・生徒の生活実態、学習状況、進路意識等に関する調査を継続的に実施する。
　イ　学習意欲を高め、「受験対応の学力」と「生涯にわたり学び続ける学習力」を育むカリキュラムを再編する。
　　・次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、多様な科目の内容を一層充実させるとともに、科目どうしの系統性を考慮したカリキュラムを編成する。
　　・生徒の学びへの意欲向上と学習習慣の確立をめざし、家庭の理解と協力を求めるとともに、幅広く外部人材の活用も進める。
（２）生徒が安心して安定した高校生活を送るための環境整備
　ア　生徒の支援体制、相談体制を整える。
　　・ＳＳＷの協力を得て生徒を支援できるよう教員体制を整え、具体事例について検討する場を設ける。
　　・教育相談体制を整備し、不登校や退学を防止する。
　イ　生徒の自律・自立に向けた生活指導・キャリア教育を推進し、将来展望を持って積極的に学ぶ意欲を養う。
　　・自他を尊重し、社会で通用する規範意識を育む。
　　・生活背景をふまえた生徒理解をもとに丁寧な生徒指導を行う。
（３）教職員が自ら学び、専門性を高め、質の高い教育実践を推進する組織づくり
　ア　教員の授業力向上を不断に進めるためのシステムを確立する。
　　・業務の適正化、効率化を組織的に進め、教員が授業づくりにかける時間を確保する。
　　・校内授業研究を継続的に実施し、教員の授業力を向上させる。
　イ　計画的な教員研修の実施、教職員の様々な研修への参加、他校との交流を積極的に進める。

２．ともに生きる社会の形成者としての資質、能力を育む

（１）キャリア教育の充実
　ア　これからの社会で必要とされる資質・能力を踏まえ、「社会への扉（産業社会と人間、総合的な学習の時間）」及び「課題研究（総合的な学習の時間）」の充実を図る。
　　・総合学科の学びの柱として、３年間を見通した系統的な学習プランをデザインし、全教員の共通理解のもとに進める。
　イ　キャリアガイダンスの拠点としての「インフォメーションルーム」を整備し、本校のガイダンス機能を充実させる。
　　・学習や進路に関しての情報を得られる場として、生徒が積極的に活用できる環境づくりを進める。
　　・生徒からの相談に応じて適切な支援を行えるよう、教員のスキルを高め、就職率 100%を維持し、希望進路決定率 95%以上をめざす。
（２）生徒の自主活動育成
　ア　生徒会・委員会活動をいっそう充実させる。
　　・生徒が学校づくりに参画していけるような支援体制を整える。
　　・地域で活動する様々な団体等と連携し、社会にも働きかける活動を行う。
　イ　クラブ活動を活性化する。
　　・生徒のクラブ加入率を高めるための条件整備を進める。
　　・クラブ顧問の指導力向上、外部人材の活用等により、クラブ指導の充実を図る。
（３）人権尊重の学校づくり
　ア　人権が尊重される学校文化の確立
　　・生徒が人権の課題を自分の課題としてとらえ、確かな人権感覚を養う系統性のある学習プランを確立する。
　　・教職員の人権に関する知識や感性を常にハイレベルで維持し、すべての教育活動を通して、人権教育を行う。
　イ　配慮を要する生徒への支援を全ての分掌・教科・学年等の連携により進める。
　　・日本語指導が必要な生徒、障がいのある生徒等に対する支援体制を整える。
　　・配慮を要する生徒が他の生徒との関わり、ともに成長できる集団づくりを進める。

府立八尾北高等学校

３．地域と連携・協働し、ともに地域の教育力の向上をめざす

（１）家庭・中学校・地域との連携強化

ア　保護者の学校教育への理解と参画を促進するとともに、家庭の教育力を高めるための支援を行う。

・学校教育目標やその実現に向けた取組みについて保護者に丁寧に説明し、協働して子どもを育成していける信頼関係を構築する。

・保護者対象の講演会等を企画し、保護者が子育てに関する情報を得たり、相談をしたりできる機会を作り、家庭の教育力を高められるようにする。

イ　中学校と日常的な情報共有を行い、信頼関係を築き、連携をさらに強化する。

・中学校に対して本校の取組みを積極的に発信し、生徒の成長を見守り、支援していただける関係づくりを行う。

（２）地域の社会教育資源を活かした教育実践の実施

ア　本校の教育活動を積極的に地域に発信し、次代を担う若者の育成についての理解と共感を得る。

・本校ホームページでの発信をはじめ、地域の方々に本校をご覧いただく機会を増やし、本校の教育活動への理解を高め、教育のあり方についてともに考えられる関係をつくる。

イ　本校の教育を理解し、参画していただける方を増やす。

・「社会への扉」や「課題研究」の取組みをはじめ様々な取組みにおいて、生徒が地域に出て学ぶ機会を積極的につくり、地域の方々の理解を得るとともに協力を仰ぐ。

（３）地域との協働を深め、地域の教育力向上に貢献する。

ア　地元中学校区地域教育協議会に参画を通して、学校の教育資源を地域の教育力向上のために活用する。

・地域の教育機関との連携を深め、協働して子どもを育む顔の見える関係をつくる。

・本校の特色のある授業や施設を地域に開放し、地域の方々の学びの場、活動の場として提供する。

イ　生徒の学習活動の中に、生徒が地域課題を理解し、課題解決の方法を考え行動する取組みを行う。

・「社会への扉」の授業や生徒会活動等において、生徒が社会で活動する方々と協働する機会をつくり、生徒の社会参画への意識を育てるとともに、地域の課題解決に寄与する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］	学校協議会からの意見

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
１．総合学科の特性を活かし、「確かな学力」を育む	（１） 総合学科の特色を生かしたカリキュラムマネジメントの推進	ア．**ガイダンス部と学習指導部の協働**により、業者テストも活用しながら、生徒の生活実態、学習状況等の調査、集約、分析を継続的に行える**システムをつくる**。 イ．**カリキュラムマネジメント推進委員会**（仮）を新たに組織し、カリキュラムの見直しとともに、現状把握、改善、計画、実行の**マネジメントサイクルを確立**する。	ア． ①生活実態、学習状況等の調査結果の報告書を作成 ②次年度も継続して実施できる体制づくり イ． ①カリキュラムマネジメント推進委員会の開催 ②有識者等によるアドバイスを得て教職員研修会を実施	
	（２） 生徒が安心して安定した高校生活を送るための環境整備	ア．**生活指導部保健担当が**、対応が必要な生徒について、**ＳＳＷを活用**した生徒対応を進め、その取組みを通じて教職員の理解を深め、必要な**体制整備**を進めていく。 イ．**生活指導部生徒指導担当**を中心に、全教職員が一丸となって、生徒の**規範意識と自律の精神の高揚**を図る取組みを行う。	ア． ①課題のある生徒についての情報共有の場にＳＳＷを定期的に招き、対応を検討 ②必要な校内体制の確立 イ． ①遅刻件数3,000件未満（昨年度3,400件超） ②化粧装飾品指導について、生徒保護者への説明、教職員の意思統一のもと、指導件数の３割減	
	（３） 教職員が自ら学び、専門性を高め、質の高い教育実践を推進する組織づくり	ア．授業準備や生徒と向き合う時間の確保のために、**全ての分掌・担当・学年**が**業務の適正化・効率化プラン**を提示し、具体的に進める。 また**学習指導部**が授業力向上プランを作成し、校内研究授業等の具体的取組みを進める。 イ．様々な研修機会を有効に活用するとともに、他校の実践収集を積極的に行う。	ア． ①全校一斉退庁の完全実施 ②全教員による相互の授業見学回数２割増（昨年度 84 回）、授業づくり研修年２回（昨年度１回） イ． 研修報告書作成、報告会開催	

府立八尾北高等学校

２．ともに生きる社会の形成者としての資質、能力を育む	（１） キャリア教育の充実	ア．**ガイダンス部社会への扉担当**を中心に、探求要素の盛込み、地域人材の活用、社会への発信強化の３点を重点課題として、課題研究を含めた**３年間の学習プラン**を再編する。 イ．**「インフォメーションルーム」**がキャリア研究や科目選択のために多くの生徒に活用されるよう、**ガイダンス部は**部屋の改装、機能の充実、来室者対応の体制等の環境づくりを行う。	ア． ①「社会への扉」授業資料集の作成 ②各学年「社会への扉」自己診断値を 5%上げ（昨年度１年 74%、２年 75%、３年 76%） イ． ①インフォメーションルーム利用拡大 ②教員による支援体制の確立	
	（２） 生徒の自主活動育成	ア．**生活指導部生徒会担当**は、**学校の課題を生徒が考え、行動し、解決**していけるよう、現在の生徒会、委員会活動をさらに充実させる。 イ．会議の縮減、業務割当ての配慮により、**顧問が部活動指導**を十分に行える条件を整えるとともに、**生徒の部活動加入率**を高めるための生徒への働きかけ等具体的対策を講じる。	ア． 自己診断の生徒会行事に対する参加意識 70%超（昨年度 68%） イ． ①学年会議の回数減（昨年度週１回） ②部活動加入率５割超	
	（３） 人権尊重の学校づくり	ア．**人権教育担当**は、**３年間の人権学習プラン**を再考するとともに、すべての教育活動が、人権教育の視点に立って行われるように**教職員に働きかけ**る。また様々な取組みの**情報を収集**し、実践者との**交流の機会**を持つ。 イ．配慮を必要とする生徒について、全教職員が**共通理解**をもち対応できるよう、学年会議等での情報交換を確実に行う。	ア． ①本校人権教育プランの改定 ②自己診断の人権の取組みについての意識 70%後半の維持 イ． 支援の具体的状況及び当該生徒の満足度 （当該生徒からのヒアリングにより成果を検証）	
３．地域と連携・協働し、ともに地域の教育力の向上をめざす	（１） 家庭・中学校・地域との連携強化	ア．**ガイダンス部地域連携担当**が保護者への積極的な**情報提供**と保護者対象の講演会の企画等を通して、本校の教育活動への理解と協力を得る。必要に応じて相談機関につなぐなどしながら、**家庭の教育力を高められる**よう支援する。 イ．生徒の出身中学校と日常的な情報交換を行い、信頼関係を築き、連携して生徒を支援できるようにする。また**ガイダンス部地域連携担当**は本校の教育活動を積極的に発信する。	ア． ①保護者に対する情報提供として、本校ＨＰへの掲載や通信の発行（毎月） ②保護者向けの研修会の開催 イ． ①情報交換のための中学校訪問（年２回）及び、日常の連携 ②保護者対象自己診断の本校ＨＰ閲覧について 40%超（昨年度 26%）	
	（２） 地域の社会教育資源を活かした教育実践の実施	ア．**ガイダンス部地域連携担当**は、**情報担当**と連携し、本校ホームページを充実させるためのシステムづくりを行い、すぐに実行する。また保護者や地域の方々の声を聞ける工夫もする。 イ．「社会への扉」「課題研究」をはじめ、多くの授業や取組みにおいて、生徒が地域の教育資源を活用したり、地域の方を学校に招いたりする機会を増やす。	ア． ①本校ＨＰを充実させる体制の構築 ②授業公開週間に加え、研修会、公開講座等の実施により保護者や地域の方の来校機会・来校者数増 イ． 地域の教育資源を活用した取組みを、「社会への扉」「課題研究」で各学年ともに年間複数回実施、「総合選択科目」でも複数の科目で実施。	
	（３） 地域との協働を深め、地域の教育力向上に貢献する。	ア．**人権教育担当**を中心に、地域教育協議会に積極的に参画するとともに、保・幼・小・中・高の連携をさらに促進できるよう、顔の見える関係づくりを進めるとともに、本校の特色ある授業や施設を地域の教育力の向上に役立てるため、地域対象の講座を企画する。 イ．１年次「社会への扉」のソーシャルデザインワークにおいて、地域の具体的課題に目を向け、その解決のために地域の方と協働する取組みを加える。	ア． ①地域教育協議会への出席回数（昨年 6 回）、ベント等への積極的関与 ②地域対象の公開講座開催（昨年なし） イ． 現行の取組みを深め、地域と協働する実践（昨年なし）	